

要求開発アライアンス: Requirement Development Alliance

<http://www.openthology.org>

Openthology Version 1.0 の文書は [クリエイティブ・コモンズ-帰属-2.5 \(CC-by-2.5\)](https://creativecommons.org/licenses/by/2.5/) で提供され、営利目的で利用することが可能です。

Openthology 要求開発方法論の全体構造

Version 1.0 β1

■このファイルについて

本ファイルは、要求開発アライアンスの策定する要求開発方法論 Openthology ドキュメントの一部です。最新のファイルは、<http://www.openthology.org> より取得することができます。

■フィードバック

要求開発方法論 Openthology は常に利用者のフィードバックを受け付けます。誤り・改善点・アイデア・コメントは、info@openthology.org まで気軽にお寄せください。

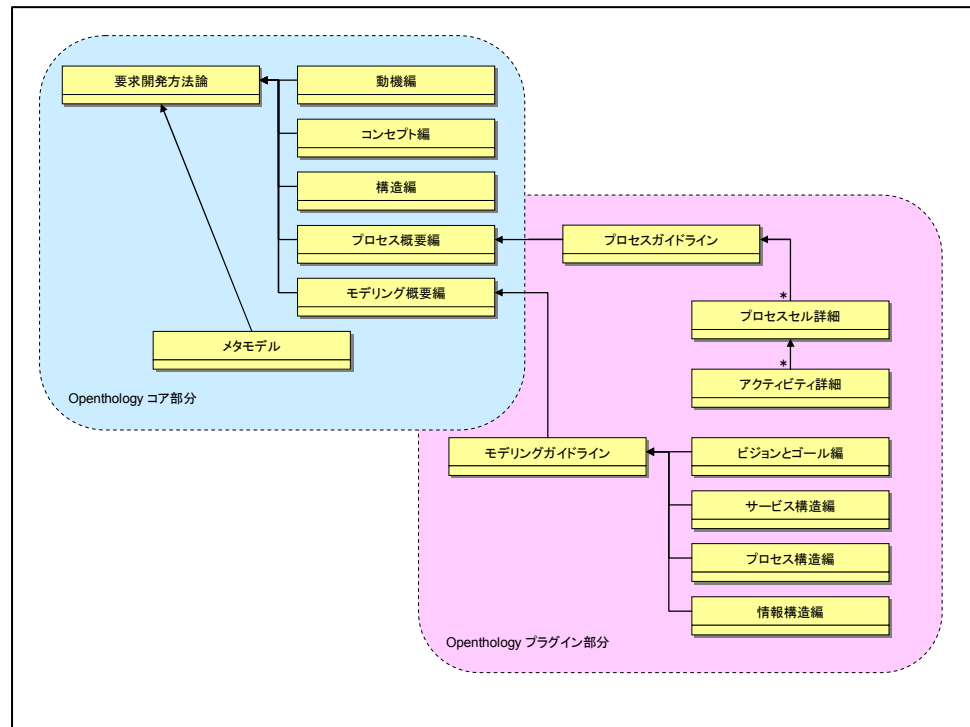
■要求開発アライアンスについて

2005年3月発足。企業や組織のIT化についての共通課題を、業務の可視化によって解決することをテーマとして結成した団体で、ユーザ企業やシステム開発関連企業あわせて50社以上、170名以上が参画しています。目下の活動は、要求開発方法論 Openthology の策定であり、Openthology のドキュメントは、要求開発アライアンスのホームページ(<http://www.openthology.org>)からダウンロードできます。Openthology は、ソフトウェア開発が始まるまでに行なうべきシステム要求の作成過程の進め方、手法、成果物などを規定したもので、現在もバージョンアップを進めています。

1. 概要

この文書は、要求開発方法論 Openthology Version 1.0 の構成要素と全体構造についての説明です。個々の構成要素の詳細は、要求開発アライアンス(<http://www.openthology.org>)からダウンロードすることができます。

2. Openthology 要求開発方法論の全体像



この図は、Openthology の構成要素を UML クラス図としてあらわしたものです。Openthology は、要求開発方法論であり、システム開発方法論は含まれていません。要求開発方法論の構成は下記のとおりです。

コア/プラグイン(*1)	要素	概要
コア部分	動機編	なぜ要求開発が必要かという動機付け。導入の際のプレゼンテーションに利用したり、実施組織(チームや上司)に対する動機付けとして使用することを想定しています。
コア部分	コンセプト編	方法論としてのコンセプトを説明しています。Openthology 要求開発方法論を開発するにあたっての達成目標や、要求開発宣言、要求開発を行う際に最も大切にすべき原理・原則と、実践する際に重要とするプラクティスが語られています。
コア部分	構造編	Openthology が方法論として、どのような構造を持っているか説明をしています。
コア部分	プロセス概要編	方法論の中のプロセスとしての概要を説明しています。
コア部分	モデリング概要編	方法論の中で使用されるモデリングの概要を説明しています。
コア部分	メタモデル	Openthology 自体の設計情報について、UML クラス図を使用して説明しています。
プラグイン部分	プロセスガイドライン	方法論の中のプロセスについて、アクティビティ、成果物、ルールなど、実践する際に必要とされる詳細

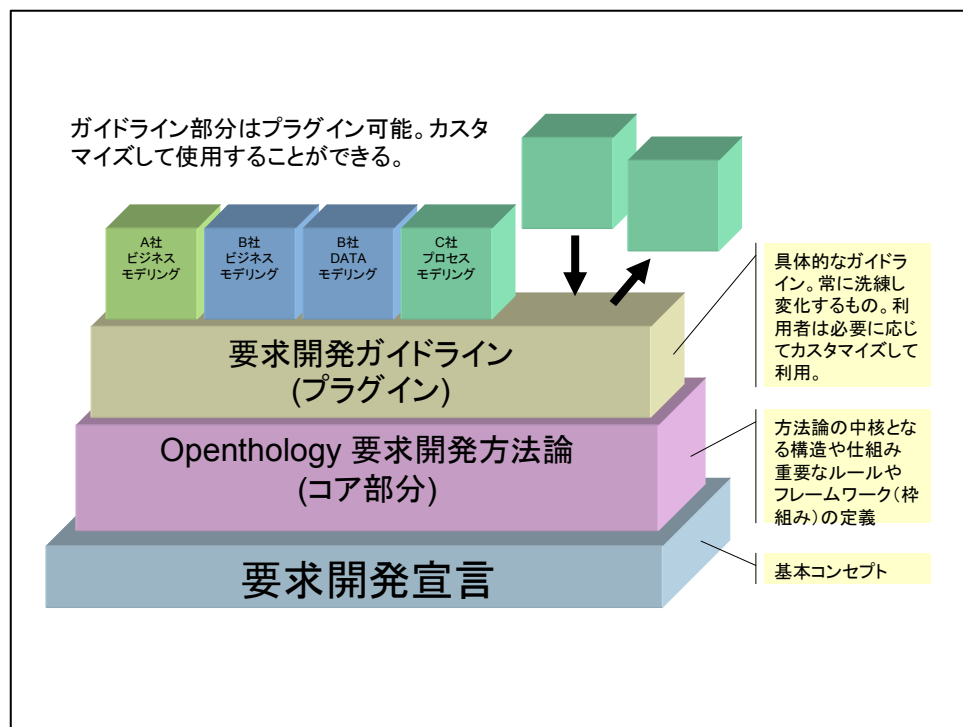
コア/プラグイン(*1)	要素	概要
		の説明をしています。 また、Openthology で定義するプロセスセル(*2)、プロセスセルに含まれる各アクティビティについての説明を含みます。
プラグイン部分	モデリングガイドライン	方法論の中で使用されるモデリングのガイドラインです。可視化すべきビジネス構造を 4 つの区分に分けて説明しています。

*1：Openthology のドキュメントはコア部分とプラグイン部分に分けて提供されます(詳細は後述)。

*2：プロセスセル … 要求開発を漏れなく行う為に基本となるアクティビティを抜き出し、標準的パターンとしてまとめたもの

3. コアとプラグイン構成

Openthology は、オープンな要求開発方法論としてクリエイティブコモンズライセンス体系にて、商用利用可能な実践的方法論として、今後も要求開発アライアンス組織で発展・成長させていくものです。要求方法論は、実践的な生きた方法論であり続ける必要があり、今後も、より分かりやすく、かつ、使いやすさをモットーに洗練させていきます。これを実現するための構成として構成要素を「コア部分」「プラグイン部分」に分けています。



要求開発宣言は、要求開発を実践する際に、実践者やコミュニティそして要求開発方法論策定チームが大切にすべきコンセプトです。要求開発方法論は、この基本コンセプトを元に策定されています。詳細はコンセプト編を参照してください。

Openthology 要求開発方法論コア部分は、方法論としての中核となる構造や仕組みを表しています。コアでは、たとえば細かな表記法などを強要していません。方法論として本質的に守るべき重要なルール(たとえばモデル利用の目的)をフレームワーク(枠組み)として定義するに留めています

Openthology 要求開発方法論プラグイン部分は、実際に Openthology を利用するにあたって、利用者が適宜変更・追加を行なう具体的なガイドライン部分です。ガイドライン自体は常に洗練し変化するものであり、ビジネスドメインやプロジェクト特性によっても異なることを考慮しています。Openthology ではベースとなるプロセスガイドラインとモデリングガイドラインを提供しますが、これに加えて利用者がプラグインの追加などを行なうことによって、利用に適したガイドラインを構成することが出来ます。

4. バージョン表記について

Openthology Version1.x シリーズのバージョン表記のルールを以下に示します。

